

第3回深川南部・臨海部 報告書

2023. 8.30

豊洲文化センター

13:30~15:30

まちづくり 話し合い ひろば

参加者 17名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

ワークショップ

あつまる！つながる！やってみる！



地域の活動目標 主な意見

深川南部

- ・気軽に挨拶しあえるまちにしよう
- ・町会、自治会が主体の地域交流の場をつくろう ・地域住民、地域活動団体がつながろう
- ・人が親しく優しく、いつもつながるように、皆が明るく挨拶しよう
- ・徒歩圏内で井戸端会議ができるような仲間づくりのできる居場所をつくろう
- ・多様性を認め理解しよう ・防災で地域がつながるきっかけをつくろう
- ・子供が安全に遊べる場を整備しよう ・地域で子供について関心をもとう
- ・学校と地域がつながろう ・町会、自治会以外で新たなコミュニティをつくろう

臨海部

- ・人と人がつながり、気軽にあいさつできるようにしよう
- ・近所の人々が日々顔を合わせるような場所を作ろう
- ・個々の集合住宅の枠を超えたコミュニティを作ろう

社協に期待すること

主な意見

深川南部

- ・まちづくり話し合いひろばの継続
- ・若い（大学生など）方を巻き込んだイベントの企画
- ・相談窓口の周知として社協クリアファイルを作成しPR
- ・職員はもっと地域に出向いて欲しい、アウトリーチで人をつなげる
- ・サテライト社協の増設
 - ・明確でシンプルな情報提供
 - ・社協カフェの工夫
- ・HPアクセス方法の改善（ボランティア情報の収集が困難）
 - ・区役所とのつなぎ役
- ・地域企業に参加してもらえる工夫
 - ・特技を持った方の人材の掘り起こし
- ・ラインやYouTubeなどを活用し社協活動の周知
- ・若い世代がいる学校やPTAとの連携に注力
 - ・福祉活動の仕組みや環境の整備
- ・ボランティアの人材育成として市民大学を開催
 - ・地域活動者同士の交流会の開催
- ・行政の下請け機関としてではなく、地域福祉の推進役として地域を引っ張って行って欲しい



臨海部

- ・町会、自治会をつなく
 - ・行政と住民をつなく
- ・人が集うイベントの企画、運営
 - ・社協事業のPR強化
- ・近隣住民が集い、気軽なおしゃべりと情報交換ができる場所の設置
 - ・社協のサテライトの増設



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



『ちいかわ』皆さんご存知だろうか？小2の娘がとても楽しみにしており一緒に見ている中ではまってしまった。ちいかわ、ハチワレ、うさぎといった登場人物たちは草むしりや、何か怖いものを討伐することで生計を立てていて、結構過酷な世界。そのような中どうやって生きているかということ、好きなものであったり、美味しいものを食べたりして、小さい幸せ探しが上手で、支えてくれる友達、一緒に喜び合う他者がいる。何で

人気なんだろうと考えると結構自分たちの生活とリンクしていて、みんな孤独な環境の中で小さい拠り所を糧にして前を向いて生きている、それから私たちは孤独の中で寂しさの中で磨いていく力も大切だし、やはりそれ以上に他者の力が必要なんだということがすごくじんわり思われる作品。

このまちづくり話し合いひろばは、市場経済に覆われ尽くしている仕組みの中で、見えにくい、いわばそういう「ちいかわ的な生きる力」を地域の中から引き上げようとしたそういう取り組みでもあったのかなと思う。

3回の「まちづくり話し合いひろば」では、「地域のいいところ」「地域の困りごと」「6年後こうなったらいいな。地域の目指す姿」「自分・地域・団体でできること」「この地域の活動目標」「社協に期待すること」など、地域福祉活動計画策定に向けて、皆様からのご意見を頂きました。ありがとうございました。この『まちづくり話し合いひろば』は、策定だけでなく、それぞれの地域のゆるやかなプラットフォームとなるように、地域の方の手により、まちづくり、地域づくりが推進されるよう社協が継続して開催していきます。
(総務課総務担当 井上)